

防災・安全交付金事業
(都) 元町畠田線
(王寺町畠田 4 丁目～王寺町本町 5 丁目)
奈良県 (地域デザイン推進課)

1. 再評価対象事業一覧表
2. 事業評価項目一覧表
3. 説明資料

事業評価項目一覧表

事業名	防災・安全交付金事業	事業主体	奈良県
河川・道路名等	(都) 元町畠田線	事業箇所	王寺町畠田 4 丁目 ～本町 5 丁目
評価項目及び評価内容			
事業の目的及び必要性 <input type="checkbox"/> 目的 ・東西方向の幹線道路ネットワークの形成、本町 1 丁目交差点及び畠田 4 丁目交差点の渋滞緩和、地域の安全性向上を図る。 <input type="checkbox"/> 必要性 ・桜井方面から王寺方面を結ぶ東西方向の幹線軸を形成する道路の整備が必要 <div style="text-align: right;">(資料 p. 8～13)</div>			
事業策定の経緯 <input type="checkbox"/> 当時の状況 ・周辺幹線道路の渋滞や通過交通の流入、幅員狭小などにより、安全な通行が確保出来ていない状況。 <input type="checkbox"/> 着手までの経緯 ・S40年12月 都市計画決定 ・H28年12月 都市計画変更 ・H29年 3月 事業認可 <div style="text-align: right;">(資料 p. 7)</div>			
事業の投資効果(費用対効果や施策的な効果など) <input type="checkbox"/> 計画時の効果 ・B/C = - (※採択時は事業費10億円未満のため未実施) <input type="checkbox"/> 現時点の効果 ・B/C = 2.8 <div style="text-align: right;">(資料 p. 13)</div>			
事業の進捗状況(着手時からの社会経済情勢の変化、事業の問題点、克服度など) <input type="checkbox"/> 進捗状況 ・事業進捗率(事業費ベース) : 約3.5% (※H29年 3月 事業認可取得) <input type="checkbox"/> 執行の遅延及び原因 ・特に大きな問題はなく、執行の遅延は生じていない。 <div style="text-align: right;">(資料 p. 14)</div>			
事業進捗の見込み <input type="checkbox"/> 進捗の対策 ・用地買収率 : 0% (令和元年9月末時点) <input type="checkbox"/> 進捗の見込み ・令和2年度より、工事や用地買収に着手し、早期の完成・供用を目指す。 <div style="text-align: right;">(資料 p. 14)</div>			
事業の対策 ・令和4年度の事業完了を目標に事業推進に努める。 <div style="text-align: right;">(資料 p. 16)</div>			
その他 <input type="checkbox"/> 関係機関等の意向 ・王寺町都市計画マスタープランにおいて、円滑な交通の確保、歩行者の安全確保、公共交通のサービス水準の維持を促進する道路として位置付け。 <input type="checkbox"/> 関連事業の有無 ・王寺道路、香芝王寺道路(事業主体:奈良県) <div style="text-align: right;">(資料 p. 4・7)</div>			

令和元年度 第2回 奈良県公共事業評価監視委員会

[再評価]

もとまち はたけだ せん

(都)元町畠田線

(王寺町畠田4丁目～王寺町本町5丁目)

令和元年11月12日

奈良県 県土マネジメント部

まちづくり推進局 地域デザイン推進課

目 次

1. 路線の状況(位置、上位関連計画への位置付け).....	P. 2
2. 事業の概要.....	P. 7
3. 事業の必要性に関する視点.....	P. 8
1) 事業を巡る社会情勢等の変化.....	P. 8
2) 事業の整備効果【東西方向の幹線道路ネットワークの強化】.....	P. 9
3) 事業の整備効果【交通渋滞の緩和】.....	P.10
4) 事業の整備効果【生活道路の安全性向上】.....	P.11
5) 事業の整備効果【防災面における機能強化】.....	P.12
6) 要望経緯.....	P.13
4. 事業の効率性に関する視点.....	P.13
5. 事業の進捗の見込みの視点.....	P.14
6. 当初事業採択時との比較.....	P.14
7. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び 事業完了後の良好な公共サービス提供の視点.....	P.15
8. 対応方針(案).....	P.16

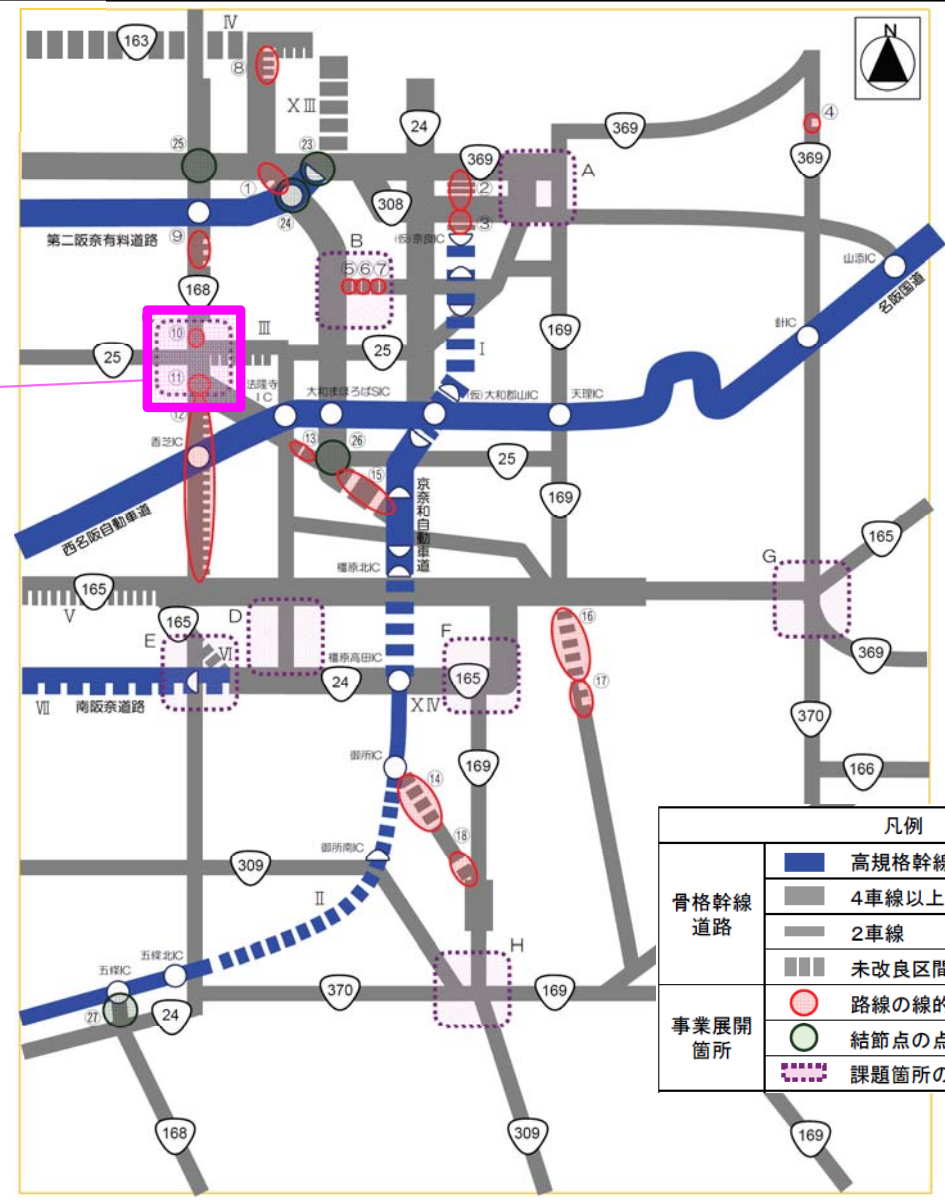
1. 路線の状況(上位関連計画への位置付け)

1) 奈良県道路整備基本計画

- 奈良県では道路整備を総合的かつ計画的に推進するため、平成26年7月に「奈良県道路整備基本計画」を策定
- (都)元町畠田線は、**骨格幹線道路ネットワーク**における**課題箇所**の**面的検討箇所(王寺周辺地区)**内に位置

【骨格幹線道路ネットワーク】

【当該面的検討箇所
(王寺周辺地区)】



出典) 奈良県道路整備基本計画(H26.7)

1. 路線の状況(上位関連計画への位置付け)

2) 王寺町都市計画マスタープラン

- 王寺町では平成30年3月に、都市の将来ビジョンと、その実現に向けた具体的方針を明確にすることを目的に「王寺町都市計画マスタープラン」を策定
- (都)元町畠田線は、**地域連携軸の一部**を成し、**円滑な交通の確保、歩行者の安全確保、公共交通のサービス水準の維持**を促進

【都市の将来像】

【広域連携軸】

・他都市との広域連携を深めるため、国道25号と国道168号を「広域連携軸」と設定し、4車線道路による広域交通ネットワークの強化を図る。

・この広域連携軸は、西名阪自動車道香芝ICから本町を連結するとともに、世界遺産法隆寺や信貴山方面へとつながる観光ネットワークとして活用するとともに、町域内の沿道において、商業施設・事業所の集積を図る。

【地域連携軸】

・周辺都市との連携や居住地域内を循環し、広域連携軸と連結することにより、拠点と居住地域を結ぶルートとして位置づけ円滑な交通の確保、歩行者の安全確保を図るとともに、公共交通のサービス水準の維持を促進。

出典) 王寺町都市計画マスタープラン(H30.3)



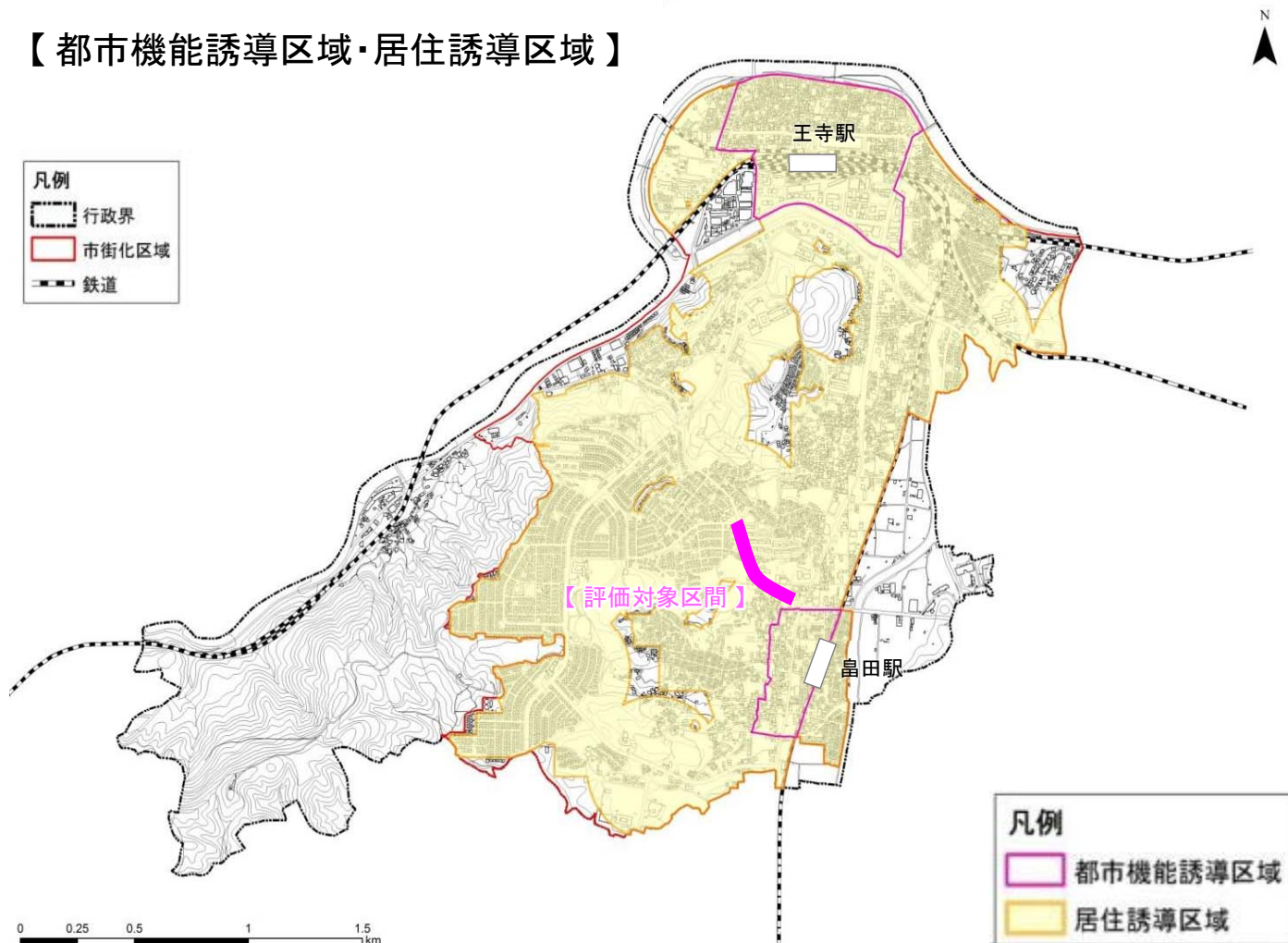
出典) 王寺町都市計画マスタープラン(H30.3)を基に作成

1. 路線の状況(上位関連計画への位置付け)

3) 王寺町立地適正化計画

- 王寺町では平成30年3月に、日常生活に必要なサービスが住まいなどの身近に存在する、コンパクトシティの取組を推進することを目的に「王寺町立地適正化計画」を策定
- (都)元町畠田線は、**居住誘導区域内に位置し、生活サービスやコミュニティの確保に寄与するとともに、一定程度の都市機能が充実した区域である都市機能誘導区域にも近接しており、同区域へのアクセス向上に寄与することを期待**

【都市機能誘導区域・居住誘導区域】



【都市機能誘導区域】

- ・鉄道駅に近い業務、商業などが集積する地域や、周辺からの公共交通の利便性が高い区域など、都市の拠点となるべき区域。
- ・規模は、一定程度の都市機能が充実している範囲で、かつ徒歩や自転車などで容易に移動できる範囲。

【居住誘導区域】

- ・人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが確保されるように居住を誘導すべき区域。

出典)王寺町立地適正化計画(H30.3)

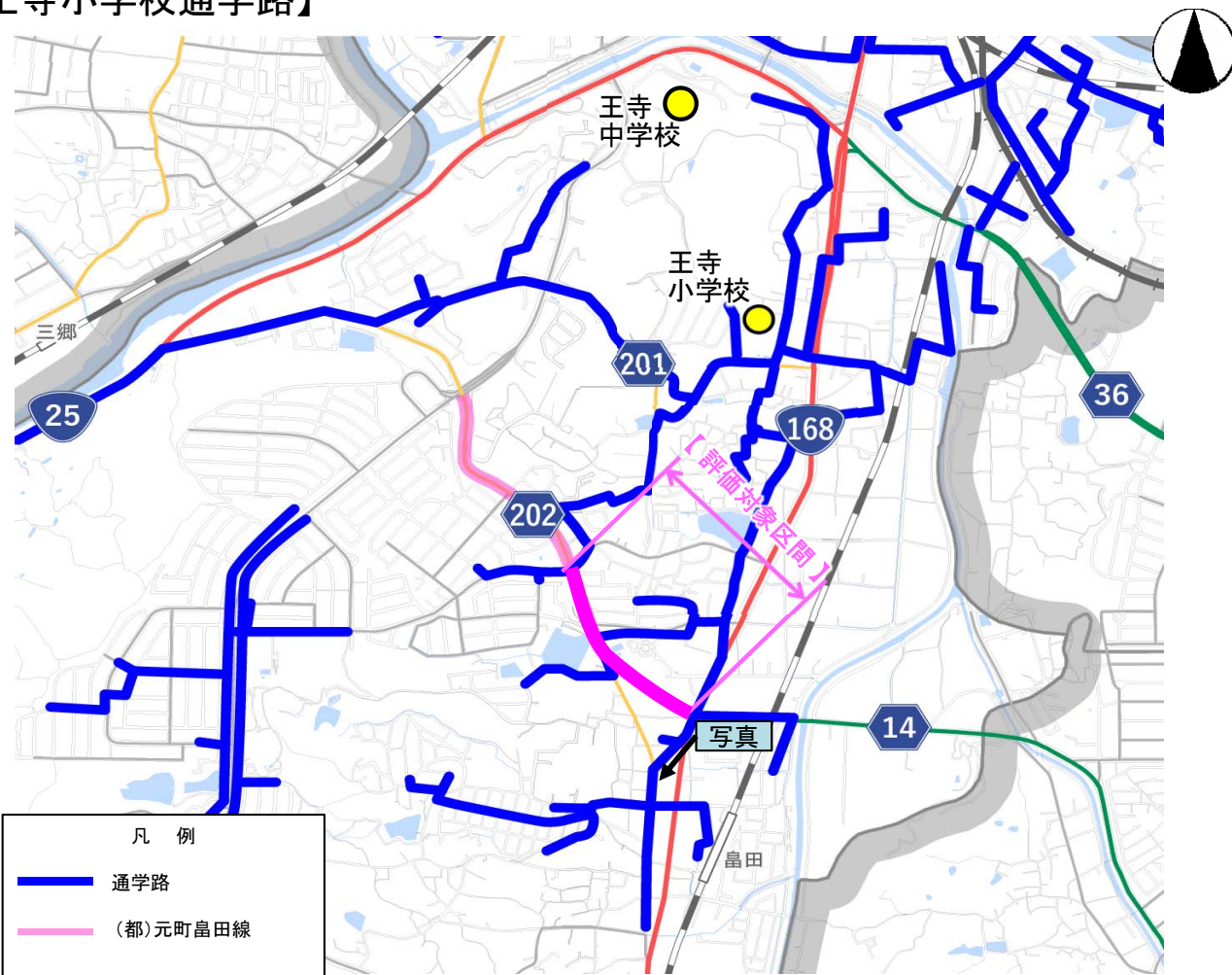
出典)王寺町立地適正化計画(H30.3)を基に作成

1. 路線の状況(上位関連計画への位置付け)

4) 王寺町通学路交通安全プログラム

- 平成24年7月に実施した県による通学路の緊急合同点検を受けて、王寺町では**通学路の安全確保**に向けた取り組みを行うため、平成27年1月に「王寺町通学路交通安全プログラム」を策定
- (一) 畠田藤井線は、**王寺小学校の通学路**に指定されているが、平成29年11月に実施した点検で、「**道路が狭く、歩道等もない**」と指摘されており、「**(都)元町畠田線の整備**」を**必要な対策**に位置付け

【王寺小学校通学路】



【通学路としての(一) 畠田藤井線の状況】

- ・道路が狭く、歩道等もない

【必要な対策の内容】

- ・(都)元町畠田線の整備

出典) 王寺町通学路交通安全プログラム



写真 通学路となっている(一) 畠田藤井線の状況

※王寺小学校は令和4年4月に王寺中学校に移転・統合予定であるが、通学路の変更はない予定
出典) 王寺町提供資料を基に作成

2. 事業の概要

◆事業の目的

- ・東西方向の幹線道路ネットワークの形成
- ・本町1丁目交差点、畠田4丁目交差点の渋滞緩和
- ・地域の安全性の向上

◆事業概要

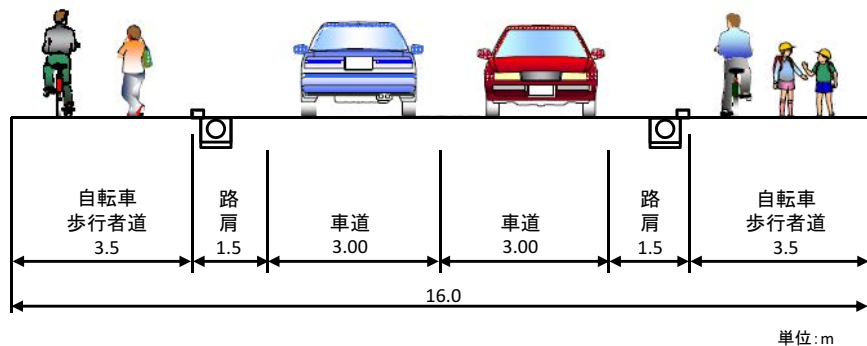
路線名	都市計画道路元町畠田線
事業区間	王寺町畠田4丁目～ 王寺町本町5丁目
事業延長	約350m
構造規格	第4種第2級
設計速度	40km/h
計画交通量	7,700台/日
車線数	2車線
道路幅員	16m
事業費	全体事業費 約10.4億円
主な事業の経緯	S40.12 都市計画決定 H28.12 都市計画変更 H29.3 事業認可

◆事業区間の道路構造

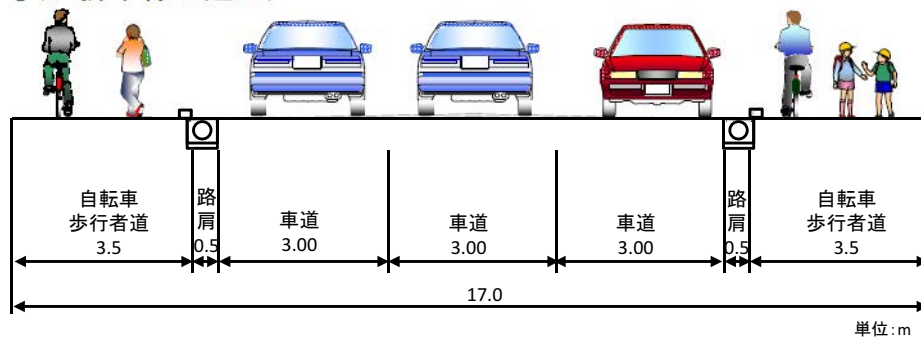


横断面

[標準部]



[交差点] (右折車線の追加)

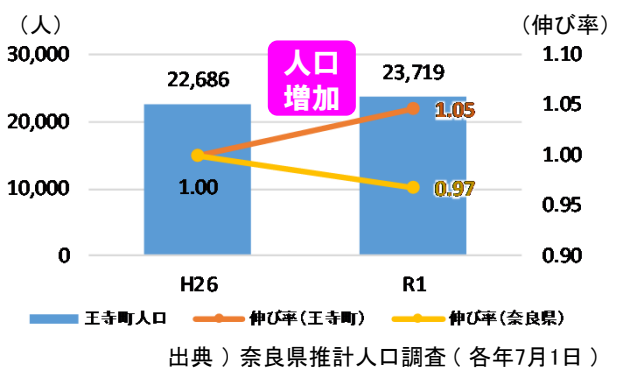


3. 事業の必要性に関する視点

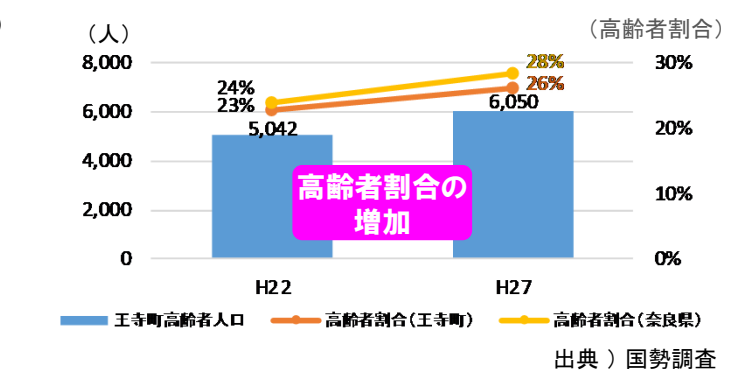
1) 事業を巡る社会情勢等の変化

- 王寺町における人口及び自動車分担率が増加
- 周辺幹線道路の交通量は、概ね横ばいから増加傾向
- 奈良県では近年高齢運転者による事故割合が増加、全国的に子どもが犠牲となる事故も発生

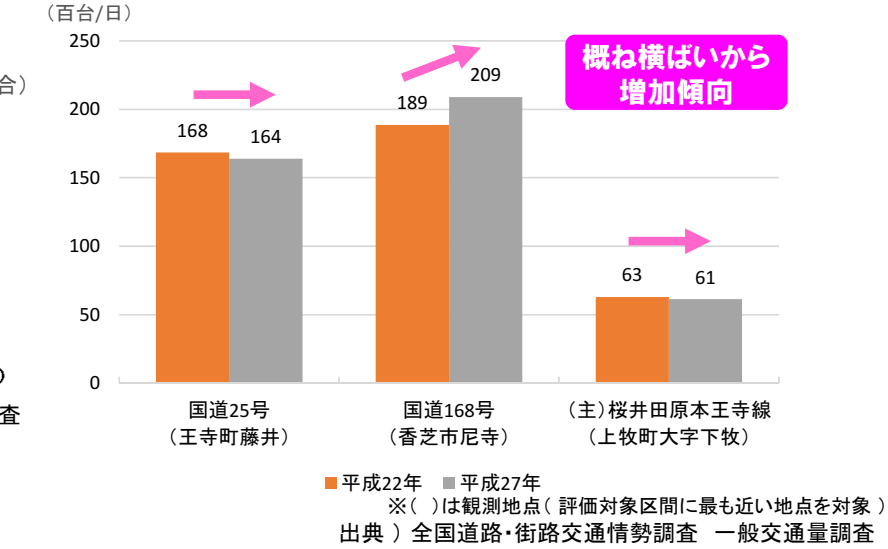
◆王寺町の人口



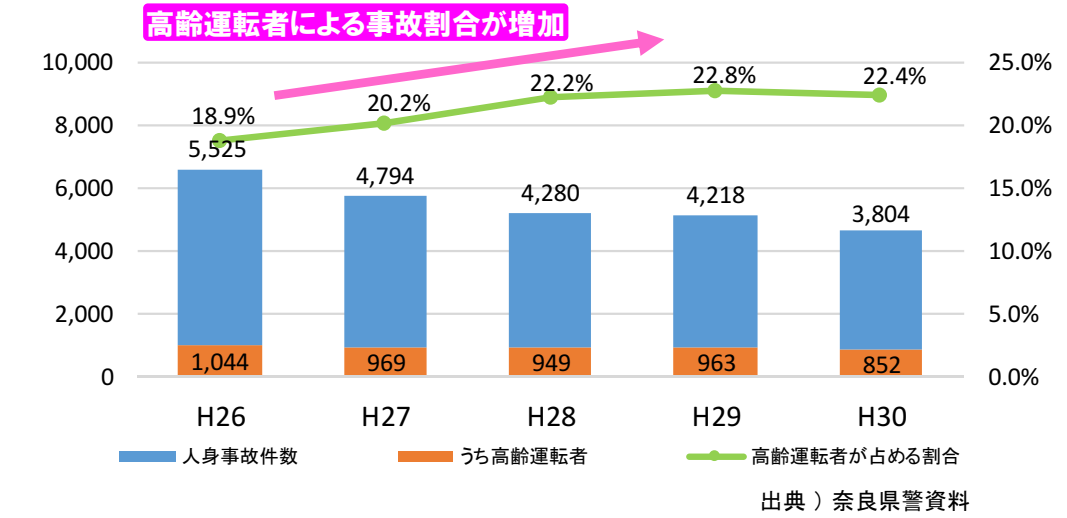
◆王寺町の高齢者割合



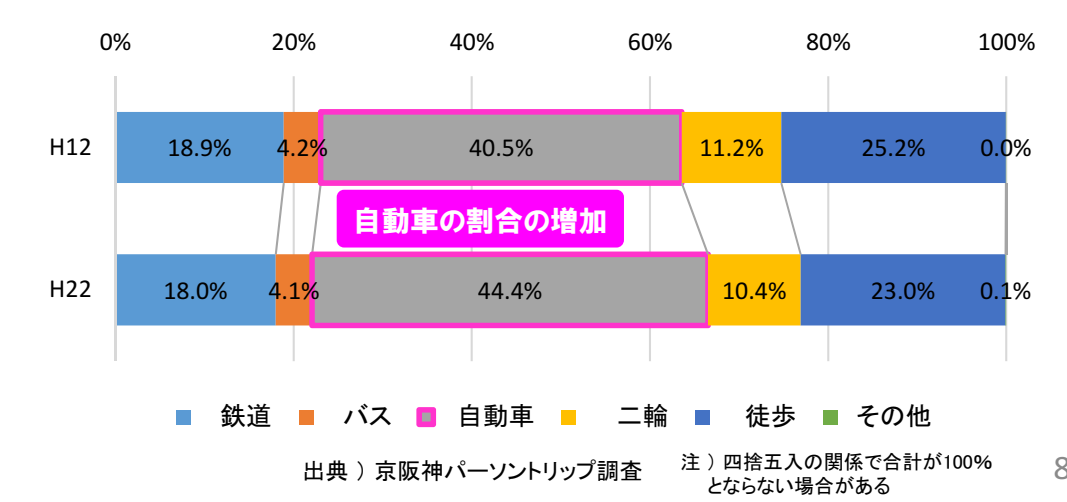
◆周辺幹線道路における交通量の推移



◆奈良県の高齢運転者による交通事故



◆王寺町の代表交通手段割合



3. 事業の必要性に関する視点

事業目的との整合	①東西方向の幹線道路ネットワークの形成	②本町1丁目交差点、畠田4丁目交差点の渋滞緩和	③地域の安全性の向上
	●		

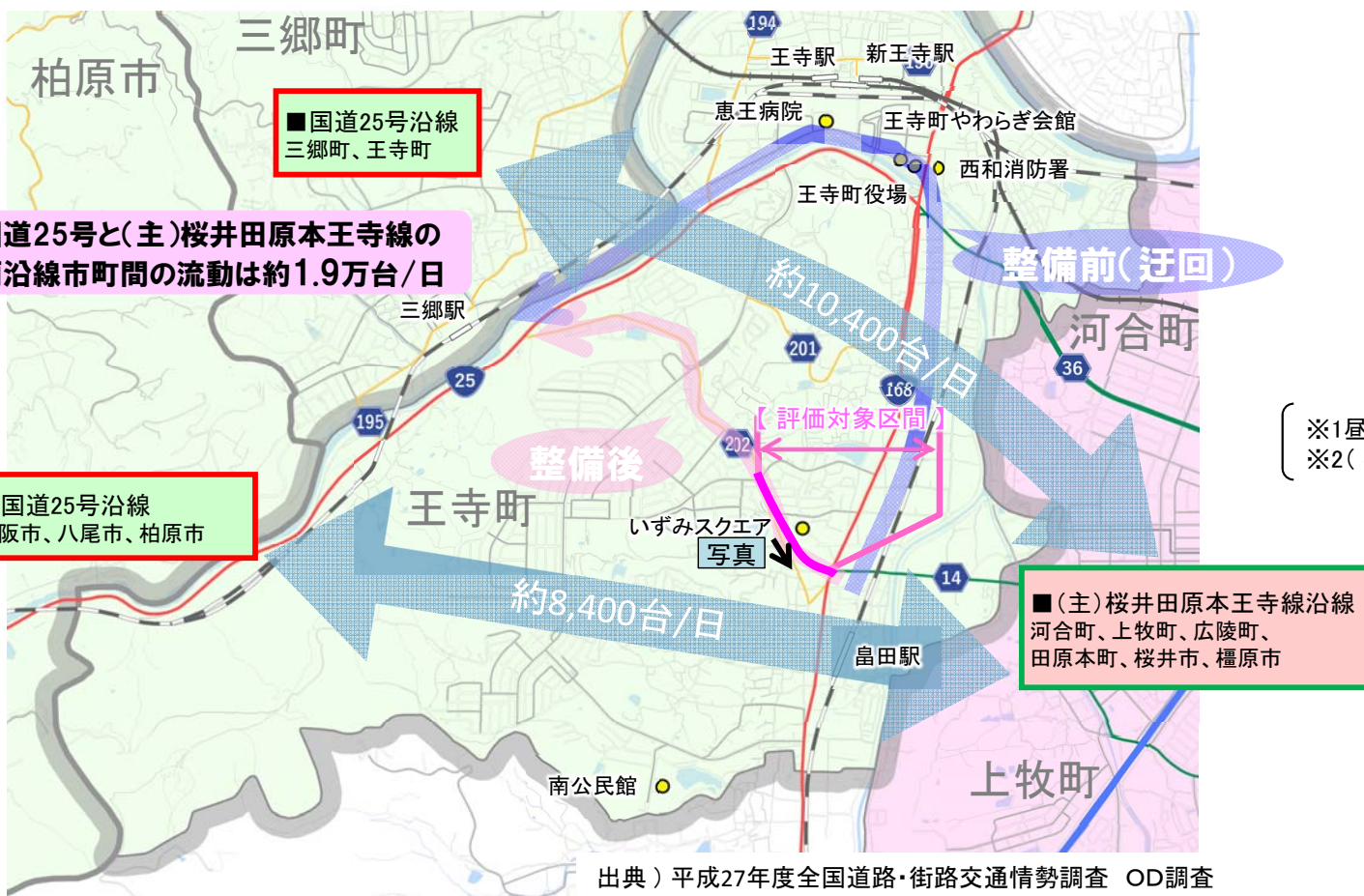
2) 事業の整備効果【東西方向の幹線道路ネットワークの強化】

- (一) 畠田藤井線は、(主) 桜井田原本王寺線と一体となって、桜井方面から王寺方面を結ぶ**東西方向の幹線軸**を形成しているが、**当該区間が未整備**であることで**幹線道路ネットワークのミッシングリンク**となっている。
 ⇒ 国道25号と(主) 桜井田原本王寺線の両沿線市町間の**流動は1.9万台/日**あるが、**現道((一) 畠田藤井線)はすれ違いが困難な区間**があり、迂回が発生しているものと推察

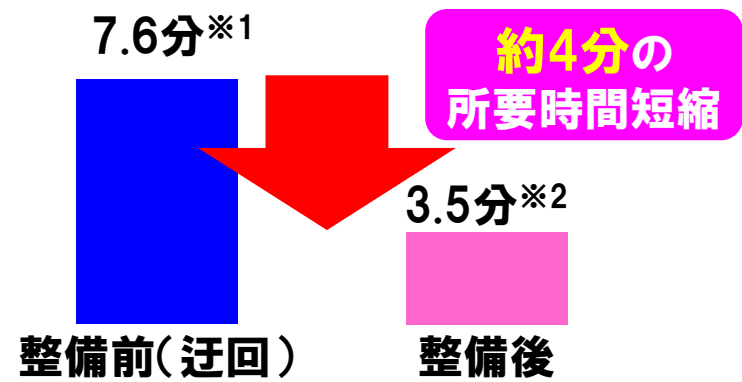


(都) 元町畠田線の整備により、**迂回が解消**し、所要時間が**約4分短縮**されるとともに、**ドライバーの負担軽減**も期待

◆ 国道25号と(主) 桜井田原本王寺線の両沿線市町間の流動



◆ 迂回した場合との所要時間の比較



出典) 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査

- ※1 昼間時の上下平均の旅行速度を採用
- ※2 (都) 元町畠田線(評価対象区間)の速度は設計速度40km/hを採用。

◆ 現道((一) 畠田藤井線)の状況



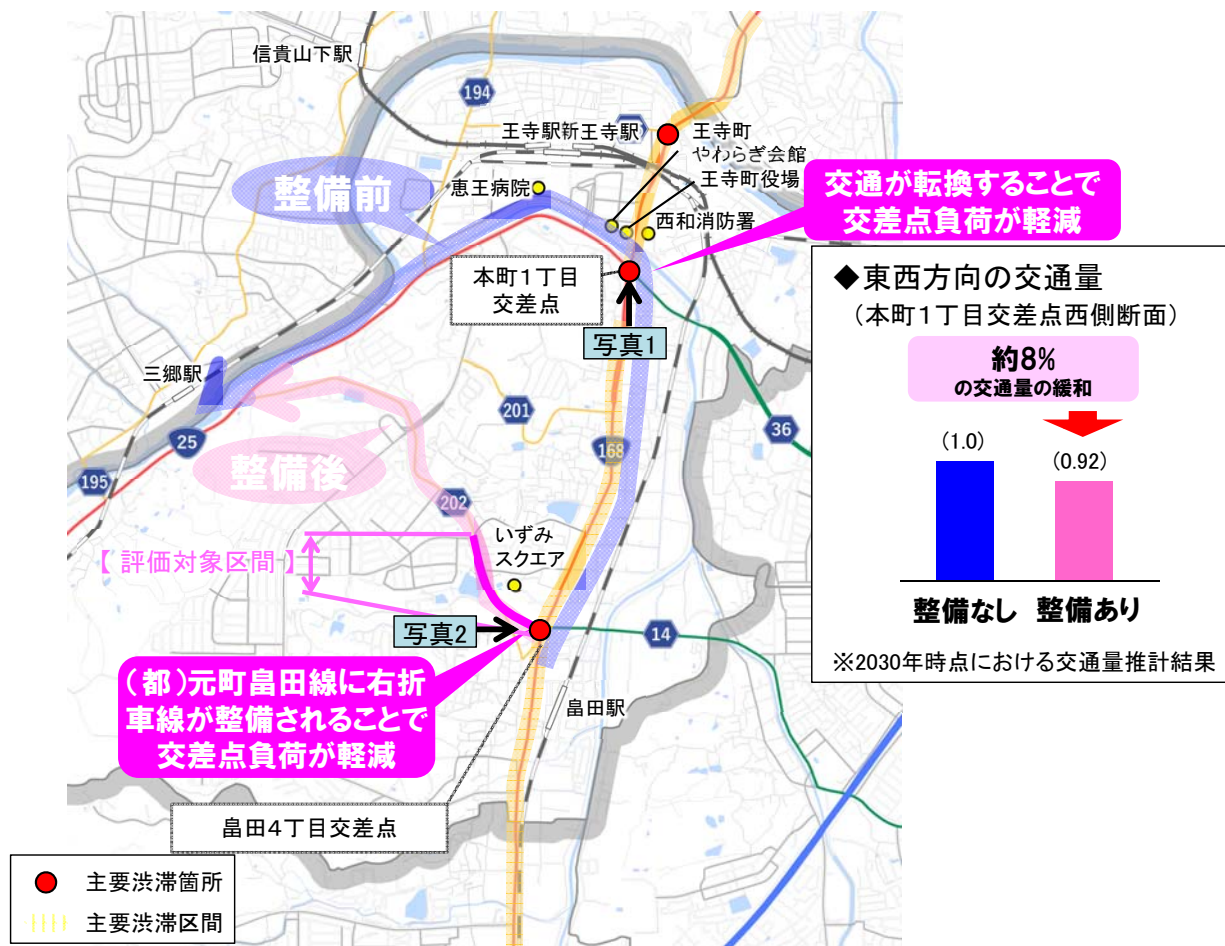
事業目的との整合	①東西方向の幹線道路ネットワークの形成	②本町1丁目交差点、畠田4丁目交差点の渋滞緩和	③地域の安全性の向上
		●	

3. 事業の必要性に関する視点

3) 事業の整備効果【交通渋滞の緩和】

■ 「奈良県みんなで作る渋滞解消プラン」(平成22年2月)の**主要渋滞箇所**に、**国道168号**においては、**国道25号と交差する本町1丁目交差点**、**(都)元町畠田線と交差する畠田4丁目交差点**も特定
 ⇒(都)元町畠田線の整備により、国道168号への迂回を含めた交通が転換され、**本町1丁目交差点の渋滞緩和**が期待
 ⇒**畠田4丁目交差点**では、(都)元町畠田線に右折車線が整備されることで、**渋滞緩和**や**地域内交通の円滑化**も期待

◆周辺地域における主要渋滞箇所



出典) 奈良県 地域の主要渋滞箇所(H25.1)を基に作成

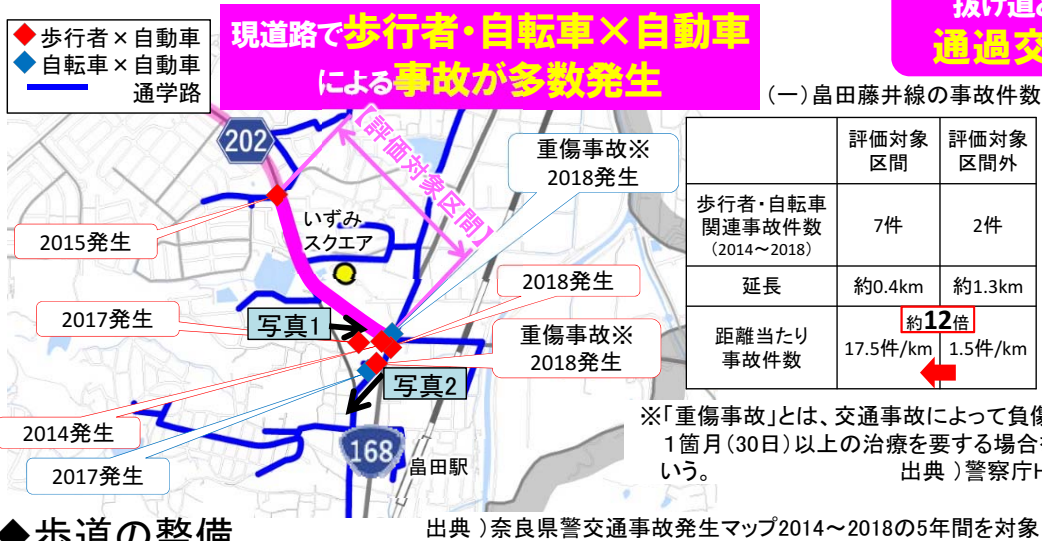
3. 事業の必要性に関する視点

事業目的との整合	①東西方向の幹線道路ネットワークの形成	②本町1丁目交差点、畠田4丁目交差点の渋滞緩和	③地域の安全性の向上
			●

4) 事業の整備効果【生活道路の安全性向上】

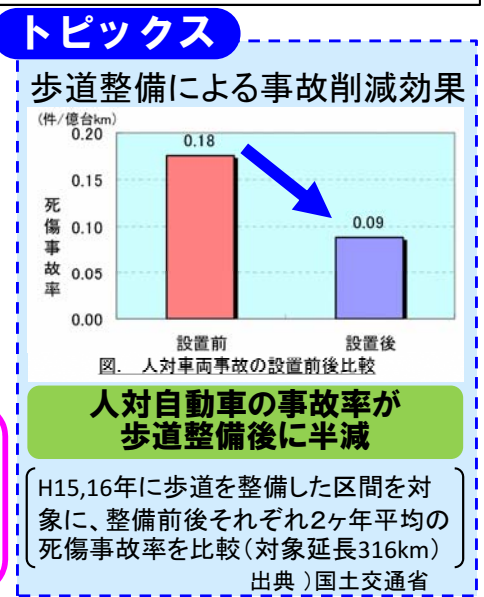
- 現道は、見通しが悪く幅員が狭いにも関わらず通過交通が多いことから、**歩行者・自転車と自動車による事故が多数発生**（2014年～2018年で7件） ※（一）畠田藤井線の評価対象区間外と比べ**距離当たり事故件数が高い（約12倍）**
- また、一部区間は王寺小学校の通学路に指定されているが、歩行空間は幅員が狭い路側帯のみで、**児童の安全が未確保**
⇒（都）元町畠田線の整備により、**歩行者と自動車が分離**されるとともに、**通過交通が本道路に集約化**されることで周辺の生活道路の**安全・安心な通行空間の確保**が期待

◆ 事故発生状況と通学路指定状況（王寺小学校）

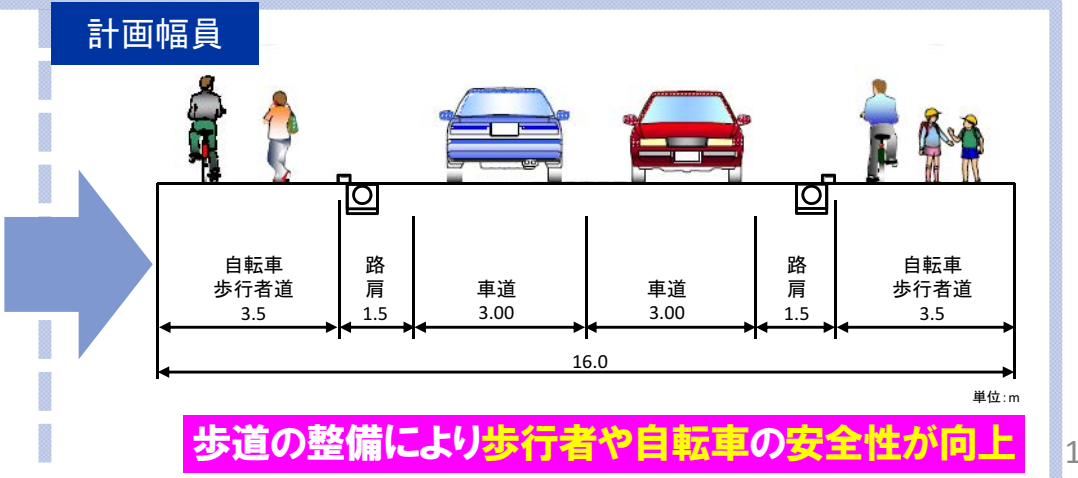
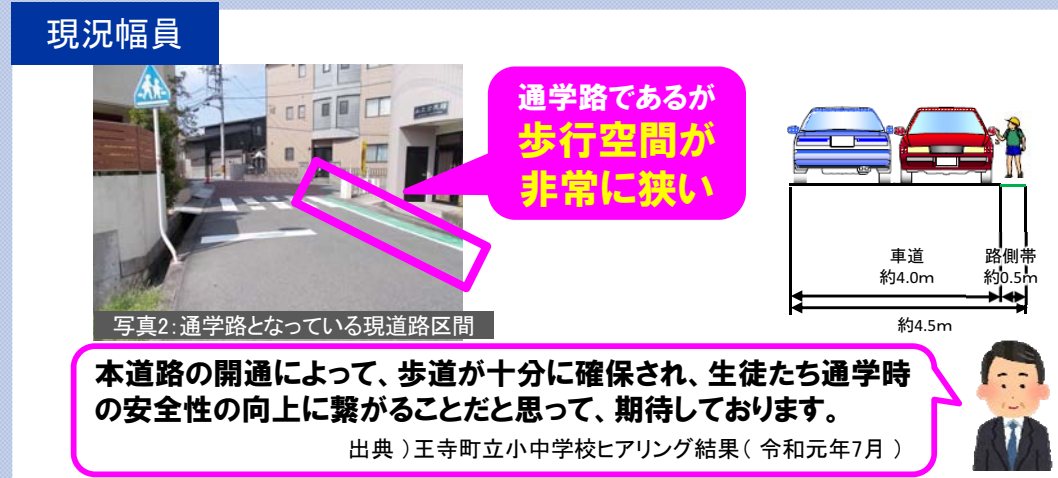


見通しの悪い道路に通過交通が多く流入して危険な状態であり、安全性の向上に期待している

出典) 桃山、山上、青松園自治会ヒアリング結果 (令和元年7月)



◆ 歩道の整備



3. 事業の必要性に関する視点

事業目的との整合	①東西方向の幹線道路ネットワークの形成	②本町1丁目交差点、畠田4丁目交差点の渋滞緩和	③地域の安全性の向上
			●

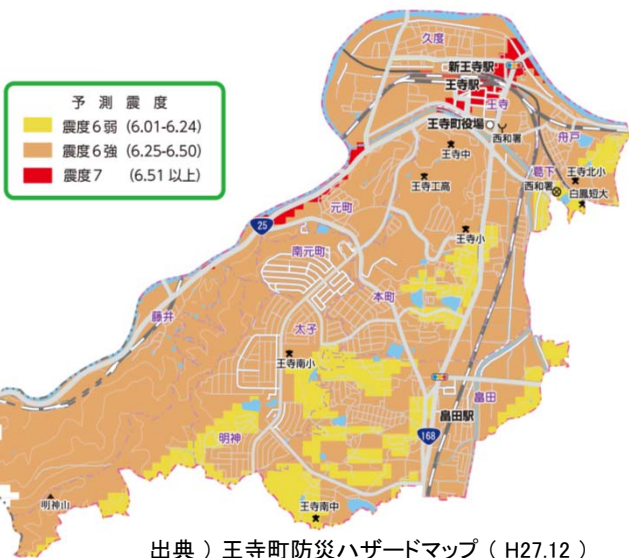
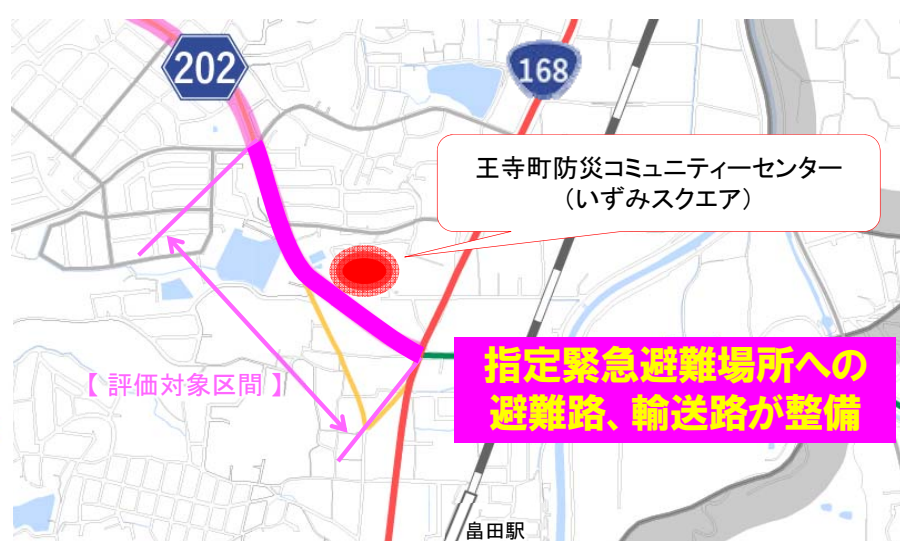
5) 事業の整備効果【防災面における機能強化】 **新規採択時にはない新たな整備効果の創出**

- 王寺町では、今後マグニチュード7以上の大地震の発生が想定され、町内ほぼ全域で震度6以上に達すると予測
 - 平成31年1月、「**王寺町防災コミュニティセンター（いずみスクエア）**」が(都)元町畠田線の沿線に開設され、**王寺町の緊急避難場所に指定**
- ⇒(都)元町畠田線の整備により、**安全な避難路や物資等の輸送路が確保され、災害時の地域の安全安心への寄与が期待**

◆王寺町で想定される地震と予測震度

震源	マグニチュード	地震のタイプ
南海トラフ巨大地震	8.6	海溝型(プレート型)
中央構造線断層帯地震	8.0	活断層
生駒断層帯地震	7.5	活断層
奈良盆地東縁断層帯地震	7.5	活断層
大和川断層帯地震	7.1	活断層

◆王寺町防災コミュニティセンター（いずみスクエア）



王寺町防災コミュニティセンター(いずみスクエア)

施設概要

- 総延床面積：4,208.39㎡
- 防災センター棟：2,692.08㎡ (鉄筋コンクリート造で一部鉄骨造・地上3階建)
- 体育館棟：1,232.52㎡ (鉄筋コンクリート造で一部鉄骨造・地上2階建)
- 備蓄倉庫棟：283.79㎡ (鉄筋コンクリート造・地上2階建)
- 施工業者：村本建設株式会社
- 設計業者：玉野総合コンサルタント株式会社
- 事業費：1,857百万円
- 竣工日：2018年11月30日

防災拠点としての特長

- ①地域住民が1,000人避難できる床面積を確保
- ②停電時に3日間の電力が賄える自家発電設備(重油ディーゼル)を設置
- ③平常時の空調以外の電力が賄える太陽光発電システムを設置
- ④断水時にトイレの水を3日間使用できる貯水槽とポンプ装置等を設置
- ⑤下水道管破損時に汚水を3日間溜められる汚水槽を設置
- ⑥防災情報や災害対策が学べる防災学習コーナーを常設
- ⑦避難生活に必要な飲料水や食糧、資機材を保管する備蓄倉庫を設置
- ⑧災害対策本部機能が設置可能

本道路沿線に立地する「いずみスクエア」は王寺町の防災拠点に位置づけられ、災害時には物資の収集・運搬の拠点にもなります。安全・安心のまちづくりを目指す本町としては、本道路が開通することにより、「いずみスクエア」の機能力向上に大いに期待しております

出典) 王寺町長コメント(令和元年7月)



3. 事業の必要性に関する視点

6) 要望経緯

- 地元自治会等から早期完成を要望。

4. 事業の効率性に関する視点

○事業の投資効果

◆事業全体

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	24億円	3億円	0.6億円	27億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	2.8
	10億円		0.1億円	10億円	

◆残事業※2

便益(B)	走行時間短縮便益	走行経費減少便益	交通事故減少便益	総便益※1	費用便益比 (B/C)
	24億円	3億円	0.6億円	27億円	
費用(C)	事業費		維持管理費	総費用※1	3.0
	9億円		0.1億円	9億円	

- 算出条件等
- 基準年 : 令和元年度
- 検討期間 : 50年間
- 現在価値算出のための社会的割引率 : 4%
- 交通量の推計時点 : 平成42年度
- 推計に用いた資料 : 平成22年度道路交通センサス
- 適用した費用便益分析 : 平成30年2月版マニュアル
- 事業費 (全事業) : 10億円 (単純価値)
- 事業費 (残事業) : 10億円 (単純価値)
- 維持管理費 : 899千円/km
- 作成主体 : 奈良県
- 周辺道路整備条件 : 国道168号 拡幅済み (4車線)
:(主)天理王寺線 整備済み (2車線)
:(一)椿井王寺線 拡幅済み (2車線)

■事業採択時には、事業費が10億円未満と見込まれていたため、B/Cの算出は行っていない。

※1 便益・費用については、現在価値化した値である。

※2 残事業については、基準年の翌年度以降の残事業費及び翌年度以降の供用により発生する便益で算出している。

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

⇒ 効率性も十分期待される。

5. 事業の進捗の見込みの視点

- 令和元年9月末(事業認可後2年半経過)時点で事業進捗率3.5%、用地買収率0%
- 現在、用地買収に際し地籍調査(王寺町)、補償調査を実施中であり、用地買収に向けて確実に事業進捗が図られている。
- 令和2年度より、工事や用地買収に着手し、早期の完成・供用を目指す。

6. 当初事業採択時との比較

	H26 (事業採択時)	R1 (再評価時)	増減	
世帯数	9,682世帯	10,418世帯	736世帯 (7.6%) 増	※世帯数・人口は7月1日時点
人口	22,686人	23,719人	1,033人 (4.6%) 増	
	H26 (事業採択時)	H27 (再評価時)	増減	
交通量	3,311台/12h	3,356台/12h	45台/12h (1.4%) 増	出典) 奈良県調査、全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査
	H26 (事業採択時)	R1 (再評価時)	増減	
事業進捗率	0%	3.5%	3.5%増	※事業費の増加要因： 詳細設計の実施に伴う 工事内容(沿道施設への 接続等)及び買収面積 の変更
用地進捗率	0%	0%	0%	
事業費	約8.95億円	約10.4億円	16%増	
完了年次	平成30年度	令和4年度	—	
	H26 (事業採択時)	R1 (再評価時)	増減	
B/C 事業全体	実施していない	2.8	—	
B/C 残事業	(事業費10億円未満のため)	3.0	—	

7. コスト縮減や代替案立案等の可能性及び 事業完了後の良好な公共サービス提供の視点

◆コスト縮減に配慮した施工

- 現地発生土を路体盛土及び路床盛土に転用することにより、運搬費ならびに購入費用の抑制が可能となり、約6,900万円(概算)のコスト縮減が期待される。

◆代替案立案等の可能性

- 現在の計画で事業の進捗に問題がないため、代替案の検討は行わない。

◆事業完了後の良好な公共サービス提供

- 供用開始時に、安全で快適に利用していただけるよう、引き続き関係機関との協議等を着実に実施する。

8. 対応方針(案)

1. 事業の必要性に関する視点

- 東西方向の幹線道路ネットワークの強化が図られる。
- 交通渋滞の緩和が図られる。
- 生活道路の安全性向上が図られる。
⇒ 当初事業採択時から必要性は変化していない。
- 防災拠点へのアクセス強化が図られる。
⇒ 当初事業採択時より必要性は増している。

2. 事業の効率性に関する視点

- 費用便益比(B/C)は事業全体で2.8、残事業で3.0。
⇒ 十分効率的な事業であると確認できる。

3. 事業の進捗の見込みの視点

- 平成29年3月に事業認可を受け、事業に着手した。
- 現在、用地買収に際し地籍調査(王寺町)、補償調査を実施中であり、用地買収に向けて確実に事業進捗が図られている。
- 引き続き事業を推進し、令和4年度の事業完了を目指す。

(都)元町畠田線(王寺町畠田4丁目～王寺町本町5丁目)は、事業の必要性に関する視点、事業の効率性に関する視点、事業の進捗の見込みの視点から継続が妥当と判断できる。引き続き事業を推進し、早期の事業完了を目指すことが適切である。

事業継続